◆水明インターネット句会◆　令和八年十月

1	秋風やふわりとほどく紅茶の香
2	秋の夕心和むや梵鐘の音
3	稲刈の見上ぐ棚田や坊主あり
4	稲刈や隠居の出番小昼時
5	庇い合う老々介護暮の秋
6	別の世の入り口探す秋の蝶
7	仰ぎ見て見える限りの黄葉（もみじ）かな
8	黙祷し仰ぐ名月阿蘇の夜や
9	出格子の灯（あかし）にひらく夕化粧
10	秋晴れや乗換駅の喧嘩腰
11	嫁ぐ子と思い出語り障子張る
12	本日休漁二反の稲を刈る
13	音もなく十六夜よぎる騎馬の影
14	買い足しし温き珈琲秋深し
15	末を待つ実生の松の涼新た
16	満月や小石ポツンと水溜まり
17	相棒はペンと菓子パン秋遍路
18	大福と花立の野花（やか）秋の風
19	一陣の風一望の芒原
20	巣立ちし子それぞれの道秋の夜

◆水明インターネット句会◆　令和八年十月

21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
こうだよと天球なぞるカシオペア	渡り鳥遠き故郷のへひとりごと	湧き水のとんがる朝や冬来たる	栗十粒むいて二人の栗ご飯	父親が立派に見ゆる豊の秋	古酒新酒蔵の庇に酒林	ケロリンの桶に湯の揺れ冬隣	ＡＩも句を詠む時代身に入みぬ	全集を閉づる夜長や鳥の声	雀らのおこぼれ突く刈田かな	茸狩へ軍手軍足鉄兜	神無月錠剤二つ白湯一椀	機関庫のレール途絶えて秋更くる	白色の曼珠沙華あり蒼き空	行く秋や手帳の余白眩しくて	目を失くし枯葉匂える最晩年	飴ちゃんを配る豹柄紅葉狩	先代の運ぶ新そば長寿庵	老いの身やかわたれ時のうそ寒し	スダジイを込めてゴッホのリボルバー

◆水明インターネット句会◆　令和八年十月

41	きのう今日明日も繁盛上り月
42	取り入れを終えたる枝に茄子一つ
43	秋の夜のギザギザを持つ帽子かな
44	流星きみと腕組み見つめてる
45	ばさばさと木の実落ちるや欠伸ごと
46	秋兆すカレーうどんを誘う風
47	秋暁や水銀灯のまだ白し
48	待つことを忘れし我に捨案山子
49	村里や一つ時分に門火焚く
50	名月やムーンサルトの着地点
51	埋め尽くす宇宙（そら）の渚のいわし雲
52	冷まじや空き家の庭の三輪車
53	定刻の汽笛遠のく宵月夜
54	手に受くる熟柿の重み日の温み
55	秋茄子の皮柔らかき間氷期
56	肉まんの湯気立ち上るレジの横
57	苗木植え花芽と見える秋深し
58	カーナビの案内はみぎ鰯雲
59	色変へぬ松色変へぬ都会人
60	マーブルのベールに透ける聖母冷ゆ

◆水明インターネット句会◆　令和八年十月

61	乗り遅れ歩きましようか秋うらら
62	秋の夜をノーベル賞は明るくし
63	帰ると言ひ帰るなと言ふ夜長
64	パチパチと秋刀魚焼くのは誰かしら
65	長き夜やもう三つ目の甘露飴
66	幾百年黄葉散らす大銀杏
67	出来秋の鼻腔くすぐる棚田かな
68	天高しフル稼働なるコンバイン
69	冷やかや琥珀に透ける虫の翅
70	初産の牛の涙目身に入みぬ
71	物価高いよよ細る身暮の秋
72	妻の老い進みゆく日々暮の秋
73	ロボットは私の上司文化の日
74	一息に葱剥いて妻無言なり
75	旧邸の歪む硝子や昼ちちろ
76	柿見ればふる里想ふ旧友（とも）想ふ
77	母の声消えゆく空や鰯雲
78	瀬渡しの小舟一艘月の朝
79	理不尽な妻のメールや秋うらら
80	大雨をくぐりこの手に今年米

◆水明インターネット句会◆　令和八年十月	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
	健康かうまさか予後の秋おかず	豆腐屋の柱に喇叭秋深し	不知火や烏賊釣り船の波の間に	茄子一つ畑仕舞いに見つけたり	鼻毛五本抜けば秋思の空気かな	雲従え月はファラオの色に照り														